

平成29年度

福島県環境審議会全体会議事録

(平成30年1月17日)

1 日時

平成30年1月17日(水)

午後 2時00分 開会

午後 3時20分 閉会

2 場所

消費生活センター研修室(自治会館1階)

3 議事

(1) 水質汚濁防止法第3条第3項に基づく排水基準の見直しについて

(2) 平成30年度水質測定計画について

4 出席委員

石田順一郎 及川浩幸 河津賢澄 菊池克彦 鞍田炎 菅井ハルヨ 前後公

高橋龍之 細谷寿江 山口信也 油井妙子 和合アヤ子 渡邊明

(以上13名、五十音順)

5 欠席委員

大迫正浩 崎田裕子 清水晶紀 鈴木秀子 高荒智子 武田憲子 中野和典

新妻和雄 橋口恭子

(以上9名、五十音順)

6 事務局出席職員

尾形生活環境部長

金子生活環境部政策監

塩見環境共生担当次長

(生活環境総室)

永田生活環境総務課長

齊藤企画主幹 他

(環境共生総室)

和田水・大気環境課長

阿部水・大気環境課主幹兼副課長 他

7 内容

(1) 開会 (司会：関谷生活環境総務課主任主査)

(2) 挨拶 尾形生活環境部長

(3) 議事録署名人

議事に先立ち、渡邊会長から議事録署名人として及川委員と和合委員が指名された。

(4) 議事

事務局(和田水・大気環境課長)から、資料1-1から1-6により、水質汚濁防止法第3条第3項に基づく排水基準の見直しについて説明し、以下の質疑等があった。

【和田水・大気環境課長】

本日欠席の崎田委員から御意見と御質問をいただいている。

意見の内容は、上乘せ排水基準の削除は妥当であるということ。

質問の内容は、カドミウムの県内の公共用水域への年間排出量が10倍に増加している要因についてである。

これについては、今回の規制の対象事業者ではないが、排水からカドミウムが検出される事業場がいわき市にあり、そこでは大量の排水をしている。特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTTR法)において、環境中への排出量の総量を概算する方法として、検出下限値以上で定量下限値未満の場合は、定量下限値の2分の1に排水量を乗じて排出量を算定することとされている。この工場は排水量が非常に多いため、定量下限値未満ではあるが、統計上県内で排出量が増えているようなデータとなっている。

なお、この工場ではPRTTR法の算定方法について、平成23年度までは誤った計算をしており、定量下限値未満であったため排出量をゼロとしていた。その後誤りに気がつき、平成24年度以降は今ほど申し上げた算定方法で算定しているが、平成24年度は非常に精度の高い方法で分析しており、定量下限値が非常に低いため、PRTTR法に基づく算定量は非常に少なかったが、平成26年度以降は、定量下限値の高い簡便な分析方法に変えたため、排出量の算定値が上がってしまっている。そのため、統計上排出量が10倍に増えたという状況になった。

我々としては、定量下限値の低い分析方法により、現実に近い方法で集計できるよう事業者の方に御協力を求めている。

【及川委員】

資料1-3について、平成27年度までのデータでは福島県のカドミウムの公共用水域への排出量は増加傾向にあるが、全国的には減少傾向にある。なぜ福島県だけが増加傾向にあるのかこの資料にははっきり書かれていない。この資料は平成27年度をベースに記載しているが、平成28年度以降のデータはあるのか。

【渡邊会長】

資料1-3は参考資料なので、今回は規制改正についての審議であるということをご了解いただきたい。その上で、県内の状況について御説明いただきたい。

【和田水・大気環境課長】

PRTTR法は経済産業省でデータの取りまとめを行っているが、まだ平成28年度のデータは集計中である。

【河津委員】

PRTTR法では、各工場がどのくらいの有害物質を出しているかを各事業者が計算して経済産業省がまとめている。ホームページに2015年までのデータが出ており、公共用水域への排出量は2011年が93kg/年、以降222kg/年、302kg/年、453kg/年、595kg/年と徐々に上がってきている。全国レベルで見れば下がっているが福島県は上がっていることについて、ただ単に計算上だけではなくて何らかの要因があるのか、もう少し分析する必要があるのではないかと。福島県はカドミウムで相当問題になったこともあり、もう少し詳細に見る必要があると思う。

今回の審議事項の条例改正については問題ない。

先程の説明の中で、只見町で地下水からカドミウムが検出され環境基準をオーバーしているという話があったが、鉱山があっただけでカドミウムは検出されるのか疑問である。何か汚染源なり、人工的な要因があるのではないかと。亜鉛の数値が高いということであれば理解できるが、カドミウムだけが高いというのは何か要因があるのではないかと。思う。

【渡邊会長】

カドミウムが増えている理由は排水量が多くなっているからなのか、それとも濃度が高くなってきているからなのか、その辺は分かっているのか。

【和田水・大気環境課長】

いわき市内の業者であり、工場の立入検査はいわき市の権限で実施しているため、具体的に把握しているわけではないが、原材料の産出地が変わったとか生産量が増えているということではなく、環境中に出ている量も従前と変わっていない。精度の低い分析方法でやってしまったためという情報しか持ち合わせていないが、いわき地方振興局等を通じながら情報収集してまいりたい。

【渡邊会長】

規制改正で排水濃度を下げることだけではなく、県全体の汚染状況についての御指摘なので、情報をいただきたい。これについても、県として探ってみることも

必要ではないか。

異議が無ければ、本件については提案された内容で審議会の答申としたい。

なお、国の法律改正が平成29年12月1日付けであるのに対し、県の条例改正は環境審議会後となるが、この件について御説明いただけないか。

【和田水・大気環境課長】

条例改正のため、この審議会の結果を踏まえ答申をいただき、それに基づいて議案を上程し、議決を経て改正内容を施行する。国の法律改正は平成29年12月1日付けであり、タイムラグが生じるが、県の上乗せ条例の改正が遅れても特に支障が生じる内容ではないので、致し方がないと思っている。

事務局（和田水・大気環境課長）から、資料2-1から2-3により、平成30年度水質測定計画について説明し、以下の質疑等があった。

【渡邊会長】

欠席者の中から御意見等あるか。

【和田水・大気環境課長】

御意見等はない。

【山口委員】

資料2-2の11頁の河川等測定地点に阿賀野川という記載があるが、福島県では阿賀川、新潟県では阿賀野川と呼ばれている。阿賀川河川事務所に確認していただきたい。

【和田水・大気環境課長】

再度確認させていただく。

【渡邊会長】

そのほかいかが。こういうところで測定が必要だ、あるいは計画の中の地点の変更等についても御意見はないか。

【及川委員】

測定地点に関して、環境基準点はどういう基準で選んでいるのか。

【和田水・大気環境課長】

基本的には水系や湖沼の水質を代表するような地点を選んでいる。

【及川委員】

水質汚染の原因は、一般家庭からの雑排水が70パーセントを占めると聞いている。人口が集中しているところが汚れている確率が高いということなので、そういうところでの測定を多くしたほうが良いのではないか。

【和田水・大気環境課長】

川の場合、上流域、中流域、下流域のうち、基準点選定にあたっては、人口集中地点だけではなく上流側の人家がまばらなところも環境状況を把握する必要があるた

め、必ずしも人口集中地域に集中して設定するということはない。

【渡邊会長】

きれいな地点と汚い地点で測定し、下流で収支を合わせることでどういう風に汚染されているのかが分かる。観測点が人口の集中している地点に多くあるよりも、上流と下流にあった方が汚染の原因が分かるということだと思ふ。

【河津委員】

今回の測定計画は、今までの水質汚濁の状況を見ながら測定地点を増やしたり減らしたりしていて、汚染状況に前年度問題があったから増やしたということではないという理解でよいか。

【渡邊会長】

今回測定地点を8地点追加し、4地点削除したという説明だったが、具体的に説明をお願いしたい。

【和田水・大気環境課長】

地下水に関しては、ローリング方式で調査する3地点、いわき市のおそらく自然由来だがふっ素が基準越えとなった地点、伊達市のテトラクロロエチレンが基準未満で検出された地点、南会津町で四塩化炭素が基準未満で検出された地点である。

それから、汚染井戸周辺調査においてテトラクロロエチレンが新たに検出された地点と、四塩化炭素などが新たに検出された地点を加えた。

水質測定計画の枠ではないが、公共用水域関係では底層溶存酸素量DOが環境基準に追加されたので、実態把握調査が必要と認識しており、猪苗代湖、裏磐梯湖沼群、ダム湖などで継続して測定し、実態把握に努めていく。

【河津委員】

魚類へい死について、例年どこかで発生しているが、昨年度の状況はどうなっているか。

【和田水・大気環境課長】

昨年の実際の発生件数についてはすぐにデータが出てこないが、魚類へい死があった場合、コイヘルペス等の水産の専門的な知識を有する方に見てもらった方がいいと推察される場合には、内水面水産試験場にも協議しながら対応している。単に魚が浮いたなどの場合には、大至急環境創造センターなどで毒物の簡易検査を実施し、そのあと高度な分析調査をして対応している。

【河津委員】

この機会に、猪苗代湖の状況をかいつまんで説明してほしい。pHが上昇してきて、CODも下がらないというのはどういうことなのか。

【和田水・大気環境課長】

猪苗代の水質浄化については行政だけではなく一般県民の方、猪苗代町民の方々にも協力をいただきながら、ゴミ拾い、水草回収、ヨシ刈りというような事業を進めている。CODは従前日本一を誇ったが、毎年夏場の8月、9月くらいになると湖の中

心付近で大腸菌群数が急激に上昇する。これが基準の1000を超えると湖のランクの対象外となる。水自体はCODだけでみれば、ベスト5くらいに入るくらい非常にきれいな状況を維持しているが、大腸菌群数が夏場に基準を大きく超えてしまうことがあってランク外になることが継続している。この原因や防止対策について環境創造センター、大学研究者と検討を進めているところだが、まだはっきりとした原因はつかめていない。ただ、pHが昔に比べればだいぶ上昇し、中性化してきており、細菌が生息しやすい、あるいは残存しやすい状況になっている。水温も比較的高い場合に大腸菌が検出されることがわかってきている。これらの大腸菌が大繁殖するときの菌種を調べると、人間や動物による糞便性の大腸菌ではなく、土壌常在菌の一種がかなり大量に繁殖していることがわかってきている。

対応として、申し上げたとおり、COD、有機物等を減らしていくために水草回収やゴミ拾いなど、やれるところから県民の皆様と一緒に進めてまいりたい。また、より科学的な究明を図っていくために、環境創造センターの研究をさらに強化・推進するとともに、猪苗代湖の北岸の昔は砂浜だったところにヘドロがたまってきたという状況、高速道路や国道で大量に使う融雪剤、あるいはスキー場などで使う融雪防止剤の化学物質が猪苗代湖に流れ込むこと等による影響について、今後研究してまいりたい。

【渡邊会長】

水質測定計画について質問はあるか。異議がなければ、提案いただいた内容で平成30年度水質測定計画を委員会の答申としてよろしいか。

【山口委員】

資料2-2の11頁の観測地点の表記は、阿賀野川ではなく阿賀川とすべきではないかということで、県の土木部の河川計画課などに確認願いたい。

【金子生活環境部政策監】

どういう考え方に基づいて河川名を表記しているのか、国道河川事務所に確認し、その結果を各委員に回答する。

【渡邊会長】

その件については確認していただき、水質測定計画については提案のとおり答申することとして承認していただいでよろしいか。

(異議なし)

本日2つの議事につきましては、別途私から知事へ答申したい。

(5) その他

(6) 挨拶 金子生活環境部政策監

(7) 閉会